

チェアアンパイアがつかない試合方法

1.セルフジャッジの方法

プレーヤーが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下のとおり行なう。

- 1) サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。
プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- 2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。
ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。
- 3) 判定とコールは、相手に分かるように、はっきりとした大きな声とハンドシグナルを使って速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。
- 4) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となるが、直ちに訂正した場合は1回目限り故意ではない妨害としてポイントレットとなる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサーブを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット(グッド)」とコールした場合は「(サーブの)レット」となる。
- 5) クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- 6) インプレー中、他コートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。
- 7) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目の時は、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。ただし落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。
レットのコールは、落し物をしたプレーヤー・チームがコールすることはできない。
相手プレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコールできる。
ただし、落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
- 8) スコアがわからなくなったときは、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなったときも同様に処理する。
再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレーヤーが2ゲーム連続サーバーにはなれない)
- 9) 次の場合はレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
 - ① 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れるとき
 - ② 相手選手の言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
 - ③ プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時

10) メディカルタイムアウトを取りたい時は、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当てを必要とする

状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。

11) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。

12) 各判定とコールをする権利者は以下のとおりとする。

①「フォールト」「アウト」「グッド」はネット側から自分側のプレーヤー・チーム

②「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チーム

③「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー・ロービングアンパイア

13) オーバールール

「イン」「アウト」のオーバールールは巡回しているレフェリー・ロービングアンパイアが行える。

14) 妨害によるレットのコール

①コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。

②対戦相手による無意識の妨害（落とし物1回目を含む）は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。

③対戦相手からの故意の妨害「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出によりレフェリー・ロービングアンパイアが判断する。ただし、妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。

15) 誤ったコールを直ちに訂正した場合

インだったボールを誤って「アウト」とコール（ミスジャッジ）したが、直ちに訂正（コレクション）した場合、1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジしたプレーヤー・チームの失点となる。そして、2回目以降は故意とみなし失点する。

(JTA TENNIS RULE BOOK 2020/公益財団法人 日本テニス協会 テニスルールブックより)